

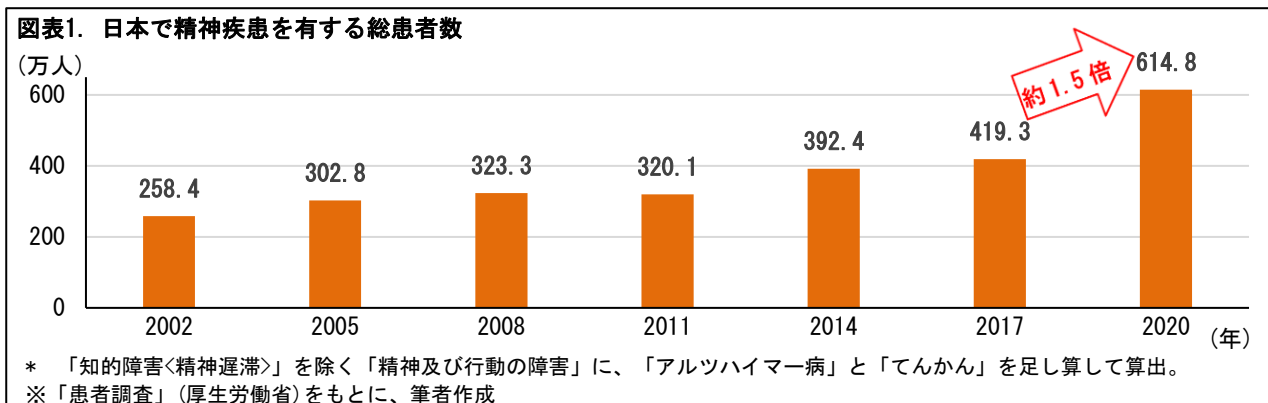
保険・年金 フォーカス

コロナが精神疾患に与えた影響 アメリカではコロナ禍により、抑うつと不安症が3倍以上に増加

保険研究部 主席研究員 篠原 拓也
(03)3512-1823 tshino@nli-research.co.jp

1—はじめに

近年、精神疾患の患者が増加している。日本では、精神疾患の総患者数が2020年に614.8万人に増加した。特に、3年前(2017年)に比べて約1.5倍に急増している。その原因として、コロナ禍に対する外出自粛等の感染拡大防止策が精神疾患の患者に影響を与えたことが考えられる。ただし詳細は、今後の疫学研究の結果を待つ必要がある。



アメリカでも、精神疾患の患者の増加が見られている。日本と同様に、コロナ禍によって、2020年に精神疾患の有病率が急上昇した。アメリカのアクチュアリー会の研究機関では、2022年11月に、精神疾患の動向に関するレポート(以下、単に「レポート」)を公表している¹。本稿では、そのレポートをもとに、コロナ禍で精神疾患がどう変化したか、その特徴について見ていくこととしたい。

2—アメリカの抑うつ症と不安症の推移

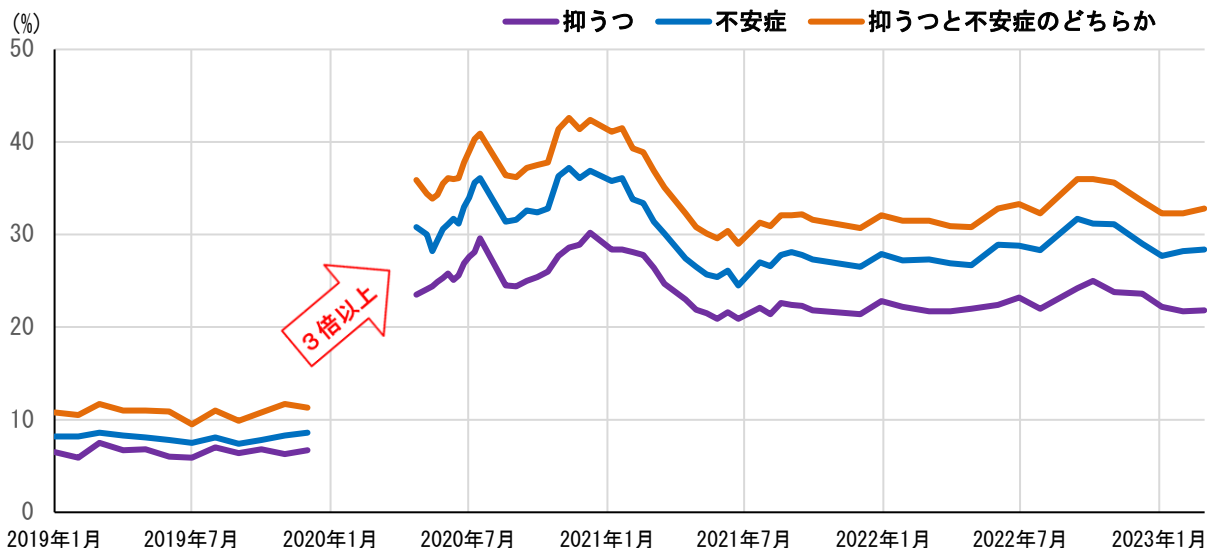
はじめに、アメリカの抑うつと不安症の様子を概観していこう。

1 | コロナ禍で抑うつと不安症の有病率は急上昇

まず、コロナ禍の前後で、抑うつと不安症の症状を呈した成人の割合(有病率)がどう変化したか、見てみよう。

¹ “Mental Illness and It’s Impact on U.S. Mortality and Longevity” (SOA Research Institute, Nov. 2022)

図表2. アメリカの抑うつと不安症の有病率推移



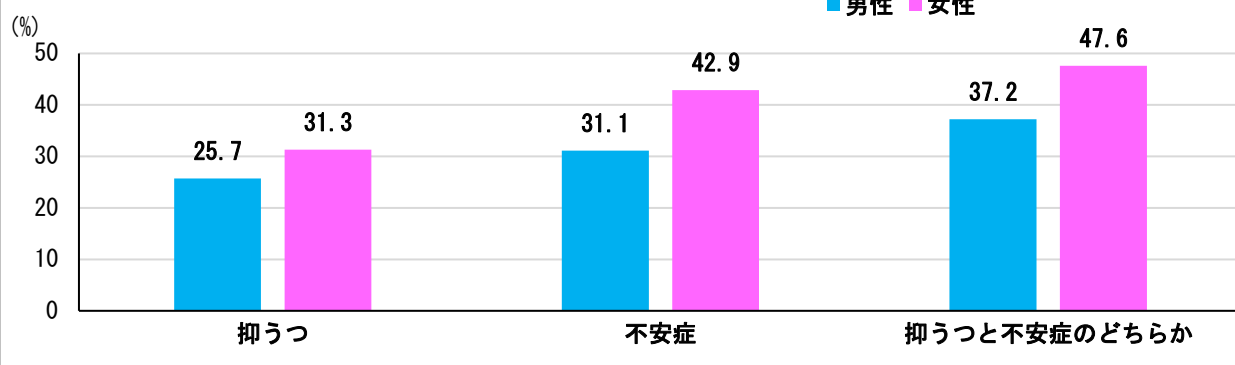
※ “National Center for Health Statistics – National Health Interview Survey”, “2019 CDC Household Pulse Survey” (アメリカ疾病対策予防センター(GCDC))をもとに、筆者作成 (以下の図表3~6も同様)

上図の通り、アメリカでは、コロナ禍が始まって以降、有病率が3倍以上に大きく上昇している。有病率は、外出制限等の規制が撤廃された後も、2020年当時の高い水準にとどまっている。

2 | 女性のほうが有病率が高い

有病率がピークとなっていた、2020年11月中旬の様子を詳しく見てみよう。性別ごとの違いを見ると、女性のほうが有病率が高い。レポートによると、これには、雇用が大きく影響しているという。女性のほうが男性よりも、コロナ禍により離職した割合が高く(女性は4人に1人、男性は5人に1人)、そのことが精神疾患の発症に影響を与えたとしている。

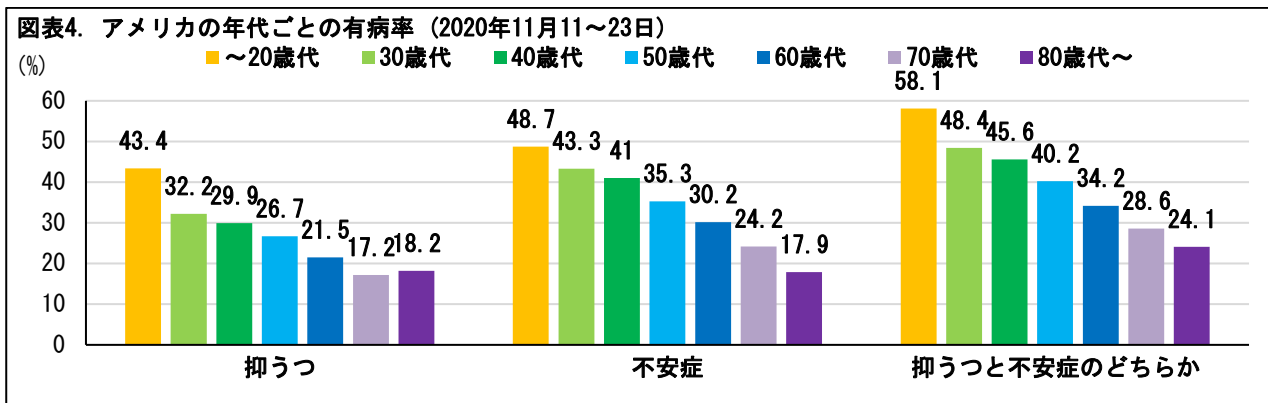
図表3. アメリカの性別ごとの有病率 (2020年11月11~23日)



3 | 若年ほど有病率が高い

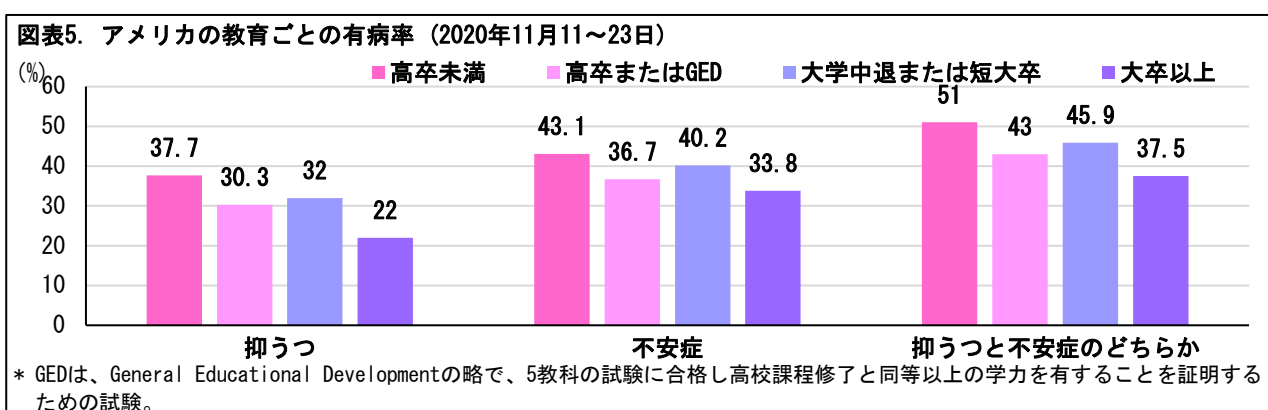
次に、年代別に有病率を見てみる。若年ほど、有病率が高いことがわかる。レポートによると、ここにも雇用の影響が強くあらわれているという。コロナ禍により、雇用喪失が激しかった若年ほど、精神疾患の有病率が高かった、との分析である。特に、20歳代以下は、抑うつと不安症のどちらかの症状の有病率も6割近くとなっており、多くの若者が精神疾患に苛(さいな)まれたことがうかがえる。

なお、レポートでは、こうした精神疾患と年代の関係はパンデミックの前から存在しており、感染症のみならず、他の環境的または世代的要因が影響している可能性についても指摘している。



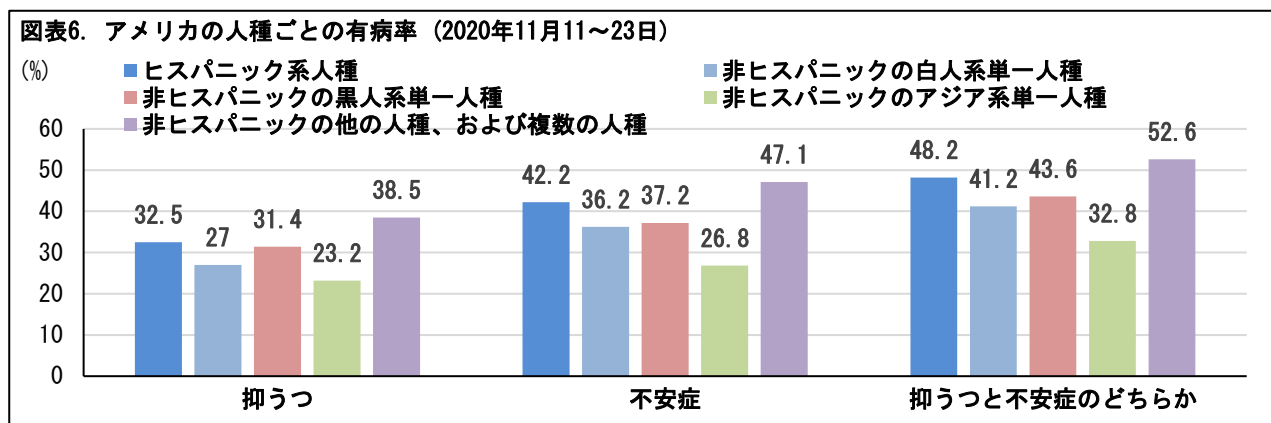
4 | 高卒未満の有病率が高い

続いて、教育による違いを見ていく。有病率は、高卒未満の人で高く、大卒以上の人では低かった。コロナ禍による影響がどのようにあったかについて、レポートでは触れられていない。



5 | 人種による有病率の違いもある

最後に、人種による違いを見ていく。人種・民族別では、「非ヒスパニックの他の人種、および複数の人種」、「ヒスパニック系人種²」、「非ヒスパニックの黒人系単一人種」で、相対的に有病率が高かった。「非ヒスパニックの白人系単一人種」と「非ヒスパニックのアジア系単一人種」は、相対的に低かった。



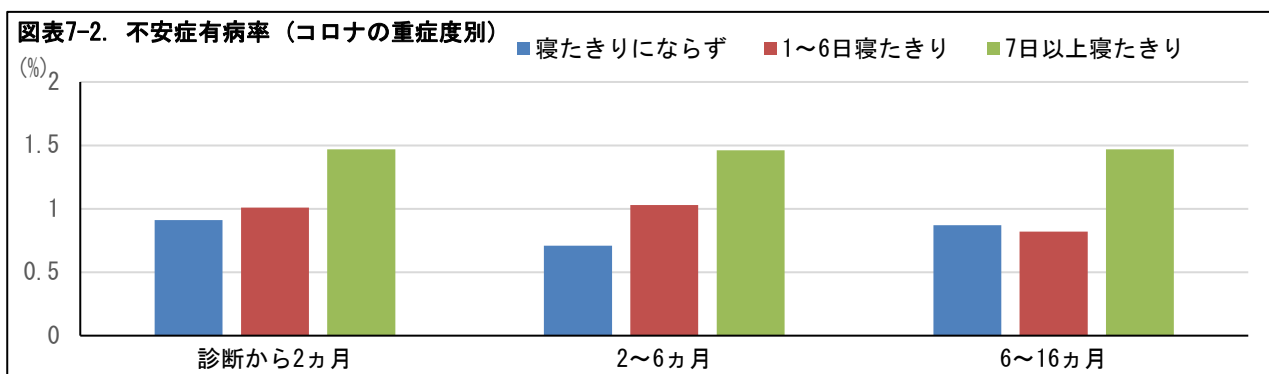
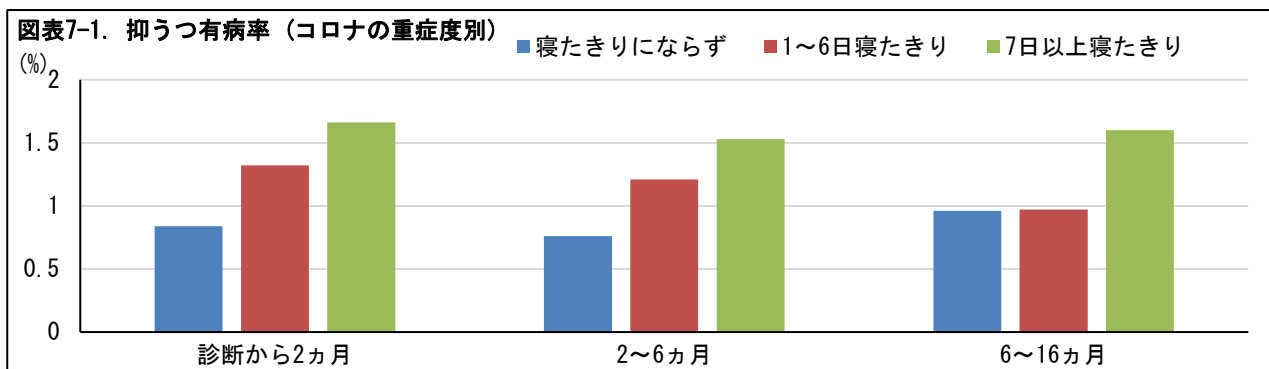
² スペイン語以外を話すラテン系人種についても、「ヒスパニック系人種」に含めている。

3—コロナ感染と精神疾患の発症

前章でみた抑うつと不安症の増加のなかには、コロナへの感染により発症したものもあるだろう。ヨーロッパとアメリカの調査結果をもとに、その様子を見ていこう。

1 | 重症のコロナ感染者は、長期に渡って精神疾患を患う傾向

デンマーク、エストニア、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン、イギリスのヨーロッパ6カ国を対象とした研究の結果³によると、7日以上寝たきりの状態が続いたコロナ感染者は、診断から6ヵ月以上経っても抑うつや不安症の有病率が高い状態が続いていることが明らかとなった。重症のコロナ感染者は、長期に渡って精神疾患を患う傾向が見てとれる。



※ 注記3に記載の報告書をもとに、筆者作成

2 | 感染防止プロトコルにより診療の負担が増加

また、アメリカの退役軍人を対象とした研究⁴によると、コロナに感染した人は感染しなかった人に比べて、診断後1年間に精神疾患に罹患する確率（発症率）が高かったという。抑うつ症、不安症、ストレスおよび適応障害、認知機能低下、睡眠障害の各疾患で、リスク差⁵がプラスとなっていた。

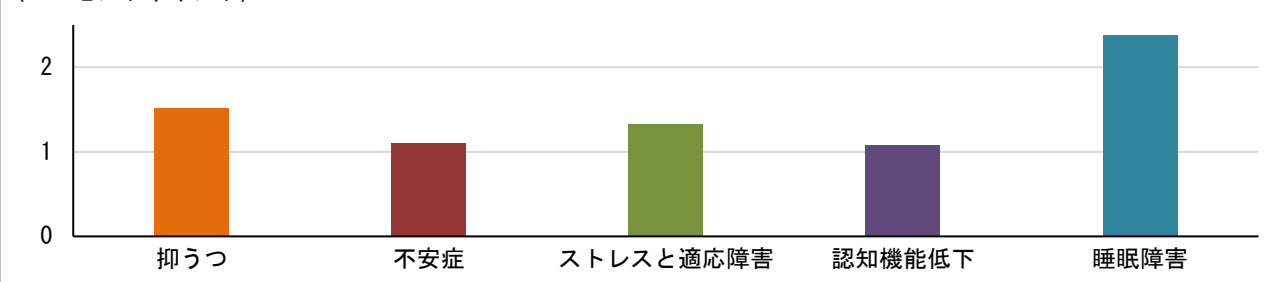
³ “Acute COVID-19 Severity and Mental Health Morbidity Trajectories in Patient Populations of Six Nations: An Observational Study” Ingibjörg Magnúsdóttir, Anikó Lovik, Anna Bára Unnarsdóttir, et al. (Lancet Public Health 7, no. 5:E406-E416., 2022) [https://www.thelancet.com/journals/lanpub/article/PIIS2468-2667\(22\)00042-1/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/lanpub/article/PIIS2468-2667(22)00042-1/fulltext) (2023年6月6日に参照)

⁴ “Risks of Mental Health Outcomes in People with COVID-19: Cohort Study” Yan Xie, Evan Xu, Ziyad Al-Aly (BMJ 376:e068993., 2022) <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/35172971/> (2023年6月6日に参照)

⁵ リスク差は、コロナに感染した人の精神疾患の発症率から、感染しなかった人の発症率を引き算したものの。

図表8. 精神疾患発症のリスク差

(パーセントポイント)



※ 注記4に記載の報告書をもとに、筆者作成

4—精神疾患に対する遠隔医療の浸透

パンデミックは精神医療の患者だけでなく、精神医療の提供にも大きな影響を与えた。外来、入院をはじめ、救急医療や相談サービスなどで変化が生じたという。

1 | 感染防止プロトコルにより診療の負担が増加

コロナ禍により、各医療機関では、感染防止プロトコルを踏まえた医療が行われた。精神科医も、そのプロトコルの影響を受けた。救急室や入院病棟での対面ケアには、感染防止のために、マスクなどの個人用の保護具が必要であった。また、入院患者のケアは、複数の患者によるグループセラピー(集団療法)⁶を継続するか、施設外からの家族等の訪問を受け入れるか、といった課題に直面した。

ただし一般に、精神科の医療スタッフは感染症防止プロトコルの訓練を受けていないことが多かった。そのため、患者にマスクを着用させること自体が困難となる場合があったという。

2 | 精神疾患の医療では、オンラインでの遠隔医療が浸透した

遠隔医療に関する規制上の障壁が緩和された。これにより、オンラインでの遠隔のケアや相談が容易になり、患者がアクセスしやすくなった。

ある報告⁷によると、パンデミック以前は、遠隔医療の利用は非常に少なく、外来患者全体の1%未満であった。しかし、コロナ禍が始まると遠隔医療の利用が進み、2020年3~8月にはピークを迎えた。精神疾患以外の外来では11%が遠隔医療となった。その後、2021年3~8月には5%に低下した。しかし、精神疾患では、ピーク時の2020年3~8月に40%に達し、その後も2021年3~8月に36%の水準を維持しており、高いまま推移しているという。

なお、遠隔医療は、特定の精神疾患に限定されたものではなく、トラウマ関連の状態に対する利用(43%)をはじめ、不安症とその関連(38%)、抑うつ(35%)、統合失調症(33%)など、様々な精神疾患で浸透した(2021年3~8月)とされている。

⁶ 「集団療法：通常10人前後の小集団を対象として、参加するメンバーの各々が自分を語ることを通じて実践される心理療法のひとつです。多くは同じ問題を抱えるひとたちや、同じような立場のひとたちを集めて行われます。(以下、略)」(「臨床心理士の面接療法」, 一般社団法人 日本臨床心理士会 HP)より

⁷ “Telehealth Has Played an Outsized Role Meeting Mental Health Needs During the COVID-19 Pandemic” Justin Lo, Matthew Rae, Krutika Amin, et al(San Francisco: Kaiser Family Foundation., 2018)
<https://www.kff.org/coronaviruscovid-19/issue-brief/telehealth-has-played-an-outsized-role-meeting-mental-health-needs-during-the-covid-19-pandemic/> (2023年6月6日に参照)

5—おわりに（私見）

本稿では、レポート等をもとに、コロナ禍と精神疾患の関連について見ていった。冒頭で見たとおり、日本でも、コロナ禍が本格化した2020年以降、精神疾患の患者が大きく増加している。

今後、コロナ禍と各種疾患や医療体制への影響などに関する研究が進むものと考えられる。それらの研究成果を見ていくことが必要となろう。新型コロナウイルス感染症は、5月8日に感染症法上の5類感染症に移行するなど、徐々に落ち着いてきたと見られる。だが、今後、これに代わる新たな感染症が出現する可能性も考えられる。感染症と精神疾患の関係性について、欧米の動向も含めて、引き続き、注視していくこととしたい。

（参考文献）

「患者調査」（厚生労働省）

“Mental Illness and It’s Impact on U.S. Mortality and Longevity” (SOA Research Institute, Nov. 2022)

“National Center for Health Statistics – National Health Interview Survey”（アメリカ疾病対策予防センター(CDC)）

“2019 CDC Household Pulse Survey” (CDC)

“Acute COVID-19 Severity and Mental Health Morbidity Trajectories in Patient Populations of Six Nations: An Observational Study” Ingibjörg Magnúsdóttir, Anikó Lovik, Anna Bára Unnarsdóttir, et al. (Lancet Public Health 7, no. 5:E406-E416., 2022)

[https://www.thelancet.com/journals/lanpub/article/PIIS2468-2667\(22\)00042-1/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/lanpub/article/PIIS2468-2667(22)00042-1/fulltext)

(2023年6月6日に参照)

“Risks of Mental Health Outcomes in People with COVID-19: Cohort Study” Yan Xie, Evan Xu, Ziyad Al-Aly (BMJ 376:e068993., 2022)

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/35172971/>

(2023年6月6日に参照)

「集団療法」（「臨床心理士の面接療法」，（一般社団法人 日本臨床心理士会 HP））

<http://www.jsccp.jp/near/interview16.php>

“Telehealth Has Played an Outsized Role Meeting Mental Health Needs During the COVID-19 Pandemic” Justin Lo, Matthew Rae, Krutika Amin, et al (San Francisco: Kaiser Family Foundation., 2018)

<https://www.kff.org/coronaviruscovid-19/issue-brief/telehealth-has-played-an-outsized-role-meeting-mental-health-needs-during-the-covid-19-pandemic/>

(2023年6月6日に参照)